

北の丸

国立公文書館は、その年報が業務の事務的報告であるに対して、「レファレンスサービスの一環」として、「きめの細かい文献情報の提供を積極的に」進めるために、館報を発行した。題して「北の丸」、所在地にちなんでの命名である。

きめのこまかい文献情報の提供とは、なにか。館長の創刊の辞には「公文書の収蔵・整理の進行状況等を速報して、利用の便を図るとともに、当館職員による所蔵資料の紹介に力を入」れることであり、具体的には、「所蔵資料に関する研究報告・解題・目録・収容細目・翻印」などであると、力説されている。

創刊号（昭和48年11月 B5 50ページ）の内容は、公文書と内閣文庫本の展示会の報告、徳川家判物並朱黒印および大臣参議及各省卿大輔約定書の紹介など。第2号（昭和49年3月 B5 125ページ）には、明治初期建白書、『太政類典』の構成、『府県史料』の解題と細目という所蔵書の研究調査、ならびに展示会の報告、被接取公文書の返還であり、いずれも、この館にしてはじめて可能なものばかりで、大いに期待したい。

大阪府立図書館紀要

先号に、9号の創立七十周年記念特集号を紹介し、創刊号以降についての紹介をも約束したが、そのうち10号が出たので、まず、その紹介からしておこう。

10号は大阪の出版文化特集で、全114ページ、館員および利用者の原稿8篇を収める。谷沢永一氏の「大阪近代出版史文壇史参考文献目録」は、当を得た書誌であろう。また大坂本屋仲間記録の館出版の計画について発表されている。かねがね強く要望されていた公刊の完成を祈りたい。

本紀要は、第1号以下、大阪関係の近世文芸の方面の論稿が数多く、手がたい研究がそろっている。城ノ崎温泉貸本屋、細合半齋の年譜（第1号）、小竹の「交友郷里姓名」、大坂水帳所在目録、「享保以後大阪出版書籍目録」書肆索引（第2号）、片山北海年譜、暁鐘成の研究（第6号）、河内柏原三田家蔵書籍関係資料（第7号）などは、この雑誌ならではの内容であり、ニーチェ関係目録（第6号）またイギリス、ソビエトなど外国図書館についての調査などと、範囲もひろい。